

# Spiritualism News Letter

2004  
新年号  
(第24号)  
1月1日発行

スピリチュアリズム・ニューズレター

発行/スピリチュアリズム・サークル 心の道場

発行人/小池里予

〒441-3141 愛知県豊橋市大岩町字北山468-1

TEL 0532-41-0537 FAX 0532-41-8257

ホームページアドレス <http://www.5a.biglobe.ne.jp/~spk/>

今月の目次

- ・スピリチュアリズムのさらなる発展期を迎えて  
実践的スピリチュアリズム時代の幕開け…………… 1
- ・呪いと生き霊の祟りについて——まことしやかな“迷信”……………16
- ・第1回公開スピリチュアル・ヒーリング開かれる……………23
- ・スピリチュアリズム・トピックス “シルバーバーチの交霊会”参加者のその後…26

## スピリチュアリズムのさらなる発展期を迎えて 実践的スピリチュアリズム時代の幕開け

「スピリチュアリズムとは何？」——こんな質問に私達は、どのように答えたいのでしょうか。

「スピリチュアリズムとは一体何ですか？」

——皆さんはこれまで、突然こんな質問を受けたことはなかったでしょうか。『シルバーバーチの霊訓』を愛読している私達は、スピリチュアリズムについてよく知っているはずなのですが、いざそれを他人に説明しようとする、とても難しいことに気がつきます。スピリチュアリズムとは何かという当たり前の質問に答えることができないのです。「自分は本当にスピリチュアリズムについて知っているのだろうか」「これまで知っているように思っていたけれども、それは勝手な思い込みではなかったのか」とショックを受けるかも知れません。実は多くのスピリチュアリストが、これと同じような体験をしているのです。

今回はまず、「スピリチュアリズムとは何か」について大局的な観点から確認することにしてしよう。スピリチュアリズムの主役である霊界人と、霊界からの働きかけを受ける立場にある地上人では、同じスピリチュアリズムといっても、それに対する観点が全く違ったものになります。霊界サイドから

と地上サイドからとでは、スピリチュアリズムについての見方が異なっているのです。

それぞれの側から見たスピリチュアリズムの相違点を比較しておくことは、スピリチュアリズムを正しく理解するうえでぜひとも必要です。初めに霊界サイドから見たスピリチュアリズムとは何か、次に地上サイドから見たスピリチュアリズムとは何かについて学んでいくことにしましょう。



## 1 || 霊界から見たスピリチュアリズムとは

### 霊界人にとっての“スピリチュアリズムの定義”

スピリチュアリズムという大プロジェクトを立案し、それを推進していく霊界の高級霊の立場からすると、スピリチュアリズムは次のように定義されません。

「イエスを中心とする霊界の高級霊が、地上人を救済するために展開している霊界あげての歴史上最大のプロジェクト」——このスピリチュアリズムの定義の内容を、もう少し詳しく見ていくことにしましょう。

### 霊界から見れば、地上世界は“暗黒の地獄”

霊界から見ると、私達が住んでいる地球（地上世界）は、霊的光が全くといってよいほど存在しない“暗黒地獄”です。地球は物質の闇によって覆われ、地球人類は「物欲中心主義」と、そこから派生する「利己主義（自分第一主義）」に支配されています。霊界人からすれば、大半の地上人は霊的存在としての最低ラインにさえ至っていないということなのです。

地球という物質世界は、死後の生活のための準備をする場所なのですが、大部分の地上人はその一番肝心なことを忘れ、地上人生を無駄に費やしています。死ねばすべてが終わりになるのだから、今のうちに思う存分快楽を味わおう、そのためにお金を儲けて財産を蓄えようと考えます。そして霊界に行ってから、たいへんな後悔をしたり、ゼロからやり直さなければならなくなっています。

霊界の存在さえ知らない地上人には、今自分が生活している環境が異常な状況にあることが理解できません。霊との係わりのない日常生活をごく当たり前のようになっています。置かれている生活環境に不満を持たないようにと自分に言い聞かせたり、何ひとつ希望を見い出せないような絶望の中で、毎日を過ごしている人もいます。自分が地獄にいること

が実感できない地上人には、「なぜ救いを求めなければならないか？」が全く理解できないのです。

### 地上人の苦しみを見過ごすことができない霊界人

しかし霊界という大きな世界から地上を見ている霊界人においては、たとえ地上人が救いの必要性を感じないとしても、それを黙って見過ごすことはできません。地上地獄の生活を送った後に待ち受けている死後の世界での後悔と苦しみが、いかに悲惨なものであるかを知っているからです。後輩である地上人の苦しみを“自業自得”と言って無視することはできません。

霊界にいる多くの霊達は、自分達もかつて同じように地球上で人生を歩み、死後、自らの無知が招いた苦しい体験を味わっています。そのため同様の後悔・苦しみを地上人に味わわせたくないと切望するのです。そして同じ地球の出身者として、地上人の救済に乗り出さざるを得ないのです。今は「救済の必要性など感じない！」と強がりも言っていますが、死後は必ず苦しみに直面することが分かる以上、何とか救い出さなければならないと思うのです。“スピリチュアリズム”は、そうした霊界人の真実の利他愛から出発した救済活動であり、最も純粋なボランティア活動なのです。



## 霊界人は、どのように地上人を救おうとするのか

では霊界人は、どのようにして地上人を救済しようとするのでしょうか。結論を言えば——「霊的真理を地上にもたらして、地上人に霊的人生を歩ませ、霊的成長を促すことによって」ということです。霊的成長のための指針であり手引書となる「霊的真理」を地上人に示すことによって“救い”をもたらそうとするのです。

さて、その霊的真理ですが、それは次のような「霊的事実」を明らかにするものでなければなりません。

- ①人間は霊的存在である（\*大半の地上人は、人間を単なる肉体的存在・物質的存在と考えている。）
- ②人間は霊的存在としての身体構造を持ち、死後は霊として生き続ける
- ③人間は神の分霊を宿している神の子供であり、他人は神のもとにあって同じ霊的兄弟姉妹である
- ④人間は神の創造した摂理と一致した生き方をしたときに、霊的成長がなされる
- ⑤神の摂理に一致するための努力の歩みが、本来の宗教である
- ⑥人間は他人に奉仕することによって神に奉仕し、神を愛することになる
- ⑦霊的成長こそが人間にとって最大の宝であり、それが本当の救いにつながる

## 霊的真理は、どのようにして地上にもたらされるのか——霊的真理をもたらす方法

では、そうした霊的真理は、どのようにして地上人にもたらされるのでしょうか。これについては、スピリチュアリズムの真理を手にした方なら誰もが知っています。言うまでもなくその答えは、「霊界通信によって」ということです。

霊界通信とは、世間一般に知られているいわゆる“霊媒現象”と同じものです。あの世にいる霊が、地上の霊媒を用いてさまざまな通信を送ってくる現象のことです。ただし大半の霊媒現象は、地上近くの霊界（幽界）にたむろしている“低級霊”によって引き起こされます。こうした低級霊からの通信は、地上人に利益をもたらすどころか、反対に害をもたらすようになります。

したがって一口に霊界通信といっても、それには必ず“優れた”という条件が付くことになります。「優れた霊界通信」でなければ価値はありません。

では“優れた”とは具体的に何かと言えば——それは「通信を送る霊が高級霊であること」と、「通信を受ける霊媒の能力と人格が優秀であること」の2つを意味します。

スピリチュアリズムでは、使命を持った高級霊や善霊が通信を送ります。これによって地上人が霊的人生を歩むために必要とされる知識と教訓が伝えられます。こうした純粋な霊界通信は、霊媒現象の中でごく一握りのものに限られます。言い換えれば

——「巷に存在する99%以上の霊界通信は無価値なもの」ということなのです。

優れた霊界通信の中でも、さらに際立って優れたものが『シルバーバーチの霊訓』やモーゼスの『霊訓』、アラン・カルデックの『霊の書』です。これらはまさに「世界三大霊訓」と呼ぶにふさわしい内容を持っています。



## 地上人を靈的真理に出会わせるための、靈界からの導き

靈界の靈達は、優れた靈界通信を通じて靈的真理を地上にもたらすと同時に、靈的真理の普及にマイナスとなる地上的な障害を取り除いたり、真理が浸透していくための受け入れ態勢づくりを進めてきました。スピリチュアリズムの初期に“心靈現象”が頻発したのは、その一環としての動きでした。現在も靈的真理を普及するための環境づくりとして、さまざまな分野への働きかけが総力を挙げて行われています。

一方、これとは別に、靈界からは地上人一人一人に向けても強力な働きかけがなされています。時期のきた地上人を靈的真理と出会わせるための個別の導きがなされているのです。その役目は主として、地上人それぞれに付いている「守護靈」が担当することになります。靈界から見れば、地上人の靈的レベル（靈性）や靈的状态は一目瞭然です。ましてや生まれてからずっと地上人を守り導いてきた守護靈には、なおのこと手に取るように分かるのです。

守護靈にとって一番の関心事は、自分の導く地上人が、スピリチュアリズムの靈的真理を受け入れられる時期に差しかかっているかどうかです。すべての関心は、その一点に向けられています。なぜなら真理との出会いには、地上人生における最も重要な意義があるからです。最高に価値ある地上人生を送ることに通じるからです。

したがって、もし自分の導く地上人が靈的真理を受け入れられる時期に差しかかるとするなら、守護靈はそのチャンスを見逃さず、真理と出会わせるために可能なかぎりの働きかけを開始することになります。今、こうしてニューズレターを読んでくださっている皆さん方も、間違いなく靈界からの導きによって、スピリチュアリズムにたどり着くことができたのです。

守護靈を中心とする靈界からの働きかけを通じて、「時期のきた人」に靈的真理が届けられます。そして真理を手にした地上人が一人また一人と増えることによって、スピリチュアリズムの底辺は、時

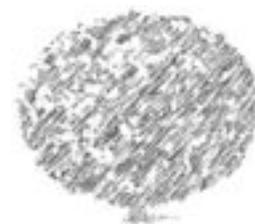
間とともに確実に拡大していくことになるのです。

## 真理と出会った後は、すべて地上人の責任

靈界の人々が地上人の救済に直接係わることができるのは、地上人を靈的真理がある場所に導くところまでです。それから先のことは、すべて地上人自身に任せられることになります。靈界人は、地上人の自由意志の領域に介入することは許されません。したがって真理を手にした後の地上人に対しては、本人が自らの責任において成長していく姿を見守っていくしかありません。何度も何度もハラハラするような局面に立たされながら、地上人を陰から導いていくことになるのです。

次で述べますが、地上人が靈的真理を手にしても、それだけで“魂の救い”に直接結び付くわけではありません。靈的真理は、どこまでも靈的成長を促すための手引書・道しるべに過ぎないのです。言ってみれば、どのようにしたら地上人が救われるようになるかを記した説明書なのです。したがって地上人が救われるためには、自ら手引書の内容を実行し、自分自身の魂を成長させなければなりません。それができないとするなら、真理に出会わせるまでの靈界人の導きの努力は、すべて無駄になってしまいます。時間をかけて準備した救いの道は、目的地を直前にして、すべて水泡に帰すことになってしまうのです。

最後は地上人が——「自らの責任において、自らの魂を救う」というプロセスを踏まなければなりません。最終的には靈的真理を手にした地上人に、すべての責任が負わせられることになるのです。



## 大部分の「他力救済」と、ほんのわずかな「自力救済」

スピリチュアリズムは地上人に対する救済プロジェクトですが、それは大きくは「霊界でのプロセス」と「地上世界でのプロセス」に分けられます。

霊界において、地上人類救済のプロジェクトが立案され、そのもとで用意周到な準備が進められてきました。真理普及の準備のために、何世紀もの長い期間が費やされたのです。そしていよいよ地上に向けての働きかけが開始され、真理が地上にもたらされるようになりました。霊的真理が地上に降ろされてからは、地上人を真理と出会うための導きが行われることとなります。そして時期のきた地上人に、霊的真理という救いの手引書が手渡されることになるのです。以上が霊界サイドでの救済プロセスです。

その後の救済プロセスは、霊的真理を手にした地上人本人に移行します。地上人が真理を実践することによって霊的成長をなし、最終的にその救済が実現することになるのです。

宗教ではよく、「他力救済」と「自力救済」といった救済論のテーマが問題となります。スピリチュアリズムを“救済論”の観点から見ると——救いの大部分は「他力」、そしてわずかな部分が「自力」ということとなります。地上人が救いに至るための大半（\*おそらく98%以上）は、霊界人によって準備されます。つまり全プロセスのほとんどが他力救済領域であり、ほんのわずかな部分だけが地上人自身の努力による自力救済領域ということになります。

地上人が自分の救いのために果たす責任部分は、全体のたった数パーセントに過ぎません。しかし、それを当事者である地上人サイドから見ると、自己責任領域が100パーセントということになるのです。もし、その責任を果たせないとするなら、それまでのすべての救済プロセスが無駄になってしまうからです。したがって地上人に焦点を合わせて見るなら“スピリチュアリズム”は——「地上人が、自分で自

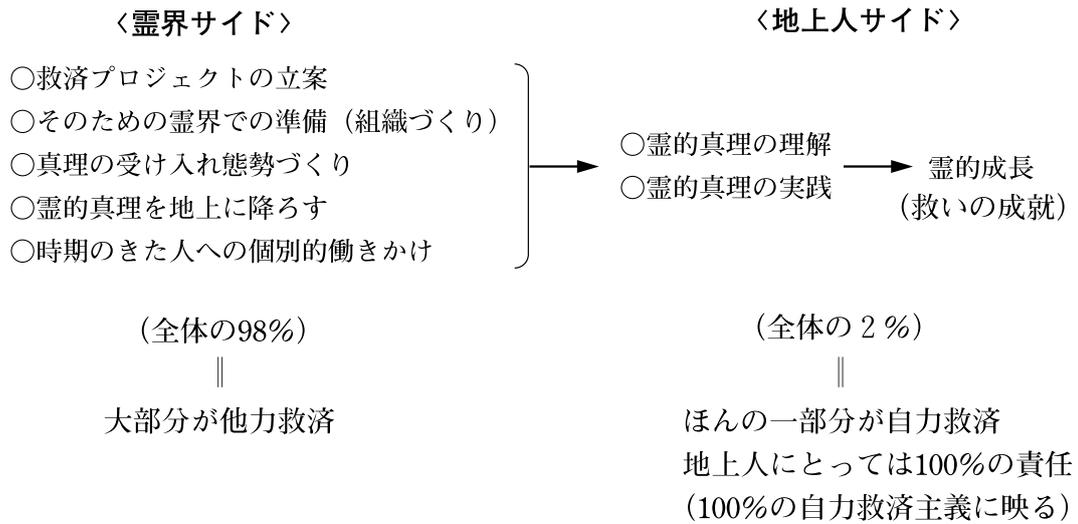
分を救う自力救済主義」ということとなります。

以上の内容をまとめると、次のようになります。



---

## スピリチュアリズムによる救済プロセス



## 2 || 地上サイドから見たスピリチュアリズムとは

### 地上サイドから見た“スピリチュアリズムの定義”

霊界人からすればスピリチュアリズムとは、地上人類に対する霊界主導の救済プロジェクトということになります。とはいっても最終的な救済まで、霊界人が責任を持つわけではありません。今述べたように霊界サイドからの救済活動は、霊的成長（救済）のための手引書・道しるべとなる真理を地上にもたらし、時期のきた地上人に手渡すところまでなのです。

一方、地上サイドから見たときスピリチュアリズムは、霊界から示された霊的真理を手にするところから出発します。時期のきた地上人がそれを受け入れて実行に移し、霊的成長をなすことによって最終的に自らを救うこととなります。したがって地上サイドから見たスピリチュアリズムとは、次のように言うことができます。

「霊界から示された霊界真理を受け入れて正しく理解し、それを実践して自分自身の霊的成長をなし、自分の魂を救うこと」——これが地上サイドから見たスピリチュアリズムの定義です。

### スピリチュアリズムは、心霊現象の研究や交霊会での霊との交わりではない

世間ではよくスピリチュアリズムを、心霊現象を研究したり、交霊会を開いてあの世の霊と交流する活動であると考えています。しかし、それはスピリチュアリズムの本質から全く懸け離れた認識です。

スピリチュアリズムの歴史の初期には、確かに精神的に心霊研究が行われ、多くの交霊会が催されましたが、それらはすべて地上に霊的真理をもたらすための準備だったのです。ところがこの下準備のプロセスが、スピリチュアリズムそのものと勘違いされることになってしまいました。

スピリチュアリズムの本質、あるいはスピリチュ

アリズムが目的とするところは、心霊現象でもなし、あの世との交わりでもありません。地上人に霊的真理を教え、霊的成長を促すことこそが、大プロジェクトの一番の目的なのです。

### “心霊現象演出”の2つの目的

スピリチュアリズムが地上に展開を始めた初期には、霊界によって驚嘆するような派手な心霊現象が盛んに引き起こされました。その目的は、地上人類（\*特に当時の最先進国であった欧米諸国の人々）に霊魂観の正しさを証明することでした。「死後の世界である霊界が現実に存在すること」「人間は死後も霊として霊界で生き続けること」「霊界にいる霊と地上人との間には交流が可能であること」——この3つの基本的な霊的事実（霊魂観）を人々に示すことが、霊界サイドが心霊現象を起こした目的だったのです。

心霊現象にはもう1つの目的がありました。それは“霊界通信”という霊媒現象に人々の関心を向けさせ、その後の高級霊からの通信を受け入れやすくする準備をすることでした。高級霊からの教訓を受け入れる環境を整えることだったのです。

こうした目的のために、派手な物理的心霊現象が霊界から計画的に演出されました。スピリチュアリズムの第一歩は、“心霊現象”から踏み出されることになりました。それは、すべて霊的真理を地上にもたらすための準備だったのです。



## 現代における“心霊現象の意義”——スピリチュアリズムの入り口にいる人だけに必要

地上世界に住んでいる人々の“霊性”は、一人一人異なっています。高い霊性に恵まれた人がいる一方で、霊的世界には全く関心がなく、ひたすら物質的利益だけを追い求めているような人もいます。また死によってすべてが消滅するという唯物主義には満足できないものの、だからといって従来の宗教の来世観にも納得できないという人もいます。死後の世界があるとするなら、その証拠を見せて欲しいと切望している人もいます。

心霊現象は、死後の世界に対する証拠を求める人間のために必要とされるものです。言い換えれば——「スピリチュアリズムのほんの入り口で戸惑っている人々を対象としているもの」なのです。すでに霊界の存在を受け入れている人や、人間は死によって消滅するものでないことを確信している人にとっては、心霊現象はもはや必要のないものであるということなのです。

スピリチュアリズムでは心霊現象を、霊的真理に至る前段階（準備段階）と位置付けしています。したがって心霊現象という低いものへの関心は、いつまでも持ち続けていてはいけないということになります。繰り返しますが、心霊現象はスピリチュアリズムの入り口レベルにいる人にとってのみ必要性があるということなのです。こうしてみると、スピリチュアリズムを心霊現象の研究と考えることは全く的外れであることが明らかになります。

スピリチュアリズムにおけるさまざまな現象は、それぞれに意義があります。しかし、それはしょせんは注意をひくためのオモチャにすぎません。いつまでもオモチャで遊んでいてはいけません。幼時から大人へと成長しなければなりません。成長すれば、よろこばせ、興味をひくために与えられたオモチャは要らなくなるはずです。

(シルバーバーチ1・126)

人間に霊的摂理を教えるためにラップなどの物理的心霊現象から始めなくてはならなくなつたことを残念に思います。

(シルバーバーチは語る・55)

## 交霊会とスピリチュアリズム

霊媒現象も、心霊現象の一つである以上、いつまでも関心を持ち続けるようなものではありません。あの世にいる知人と交わりたいという気持は理解できますが、霊的真理を手にした者が、そうしたことにのみとられ続けていてはなりません。交霊会が必要なのは、死後の世界があることを知らずに、愛する人との死別を嘆き悲しんでいる人にとってなのです。

死後の存続という知識を手にしたあともなお、いつまでも私的な交信の範囲にとどまっているようでは、これは重大な利己主義の罪を犯すこととなります。

(最高の福音・244)

もっとも、そのような人が交霊会に参加してあの世にいる霊と対談しても、ただちに死後の世界を信じるようになるとは限りません。本来は死後の世界が存在する証拠を示すことが交霊会の目的であっても、必ずしもその通りの結果がもたらされることにはならないのです。状況によっては、むしろ反対に不信感を募らせるようなことになるかも知れません。これまでニューズレターでもたびたび述べてきましたが、交霊会に出てくる霊は“イタズラ霊”が圧倒的に多いからです。

本当は一定の霊的レベルに至った人でないかぎり、霊的現象を目の前に示されても、霊界の存在を心の底から信じることはできないのです。シルバーバーチは——「生命が死後にも存続することの証拠

を手にしているながら、魂そのものは霊性に目覚めていない人がいるものです」(シルバーバーチは語る・267)と語っています。

その反対に、時期がきて霊的真理を受け入れられる段階に至った人の場合は、直接、心霊現象を体験したり交霊会に参加しなくても、初めから霊や霊界の存在を抵抗なく受け入れることができます。こうした霊性の開かれた人々は、19～20世紀初めにかけて高級霊が計画的に演出した心霊現象の事実を振り返るだけで、死後の世界の存在に対する確信を持つことができるのです。そして心霊現象や交霊会ではなく、もっと次元の高い対象——「霊的真理」や「生き方」に関心を向けるようになります。

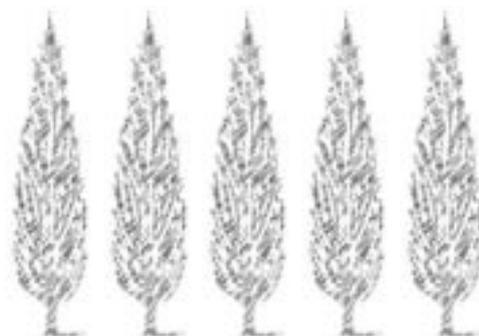
再度述べますが、スピリチュアリズムの本質は、交霊会を開いて霊と交信することではありません。人間が死後、霊界で霊として存在し続けることはスピリチュアリズムでは常識です。いつまでも心霊現象や交霊会に関心をもち続けることは間違っています。霊にお伺いを立てたり、リーディングによって霊の意見を知らうとすることは、スピリチュアリズム本来の目的から外れています。スピリチュアリストは、世の人々に心霊現象や交霊会にとらわれることの間違いを教えてあげる立場に立っているのです。

## 高級霊からの霊界通信——霊的成長のための手引書・道しるべ

地上の人間にとって重要なことは、霊媒現象(霊界通信)というありふれた心霊現象ではなく、霊界通信を通じて送られてくる高級霊からの通信内容(メッセージ)です。現象そのものより、それによって高級霊からもたらされる「本物の教訓(霊的真理)」が大切なのです。真理は、人類を救済する手引書であり、道しるべとなるからです。

先に述べましたが、世の大半の霊界通信は低級霊からのものであったり、ニセ霊能者による単なる作り物といった何の価値もないものばかりです。しかし、そうしたガラクタに混じって希少な本物が存在しています。そこで無数にあるガラクタ通信の中から、本物を探し出す努力が地上人に要求されることになります。スピリチュアリズムでは、その稀な本物の通信がシルバーバーチに代表される「高級霊の霊訓」であることを明らかにしてきました。つまり私達スピリチュアリストは、最高の霊界通信を、世の人々に先駆けて真っ先に手にした幸運な人間であるということなのです。

このような特別に恵まれた立場に立つことができたのは、本人の真理を求める真剣な努力によるところもあったでしょうが、実はそれ以上に、霊界からの必死の導きがあったからなのです。霊界からの導きがなかったならば、地上人がどれだけ頑張っても真理との出会いを果たすことは不可能だったでしょう。



**霊訓との出会いは、霊的成長の出発点に立ったということ——真理は実践してこそ価値を持つ**

高級霊による霊界通信との出会いは、地上人として最高の恩恵にあずかったことを意味します。『シルバーバーチの霊訓』を手にしたということは、魂の救済に至る最も優れた手引書・道しるべを手にしたということなのです。そこで重要なことは——「スピリチュアリストとしての本当の歩みが、その時から始まる」ということです。ところが実際には、あまりにも多くのスピリチュアリストが、この出発点にとどまったままです。手にした知識を一生懸命に学びはしても、いっこうに実行に移そうとしないのです。

霊訓はどこまでも霊的成長のための手引書・案内書である以上、それを自ら実践していかなければなりません。“救い”は実践して後に与えられるものです。霊訓との出会いは——「霊的成長の出発点に立った」ということに他なりません。言い換えれば霊訓に出会うまでのプロセスは、すべて本当の出発点をするための準備段階に過ぎなかったということなのです。せっかく手にした霊的宝（真理）を活用せずに、どぶに捨てるようなことをしてはなりません。

シルバーバーチの厳しい指摘を見ることにしましょう。

知識は無いよりは有るに越したことはありません。が、その人の真の価値は毎日どう生きたかに尽きます。

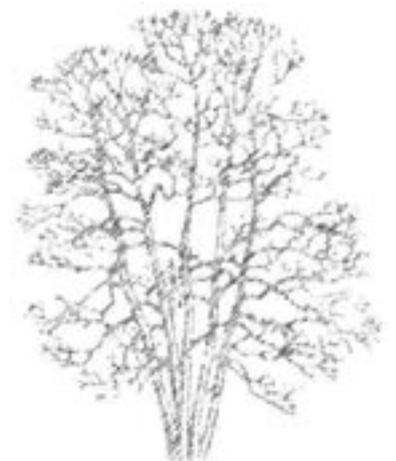
(シルバーバーチは語る・219)

単なる知識の収集では大して価値はありません。もしもそれを他人のために使わないでいると、一種の利己主義ともなりかねません。

(霊性進化の道しるべ・98)

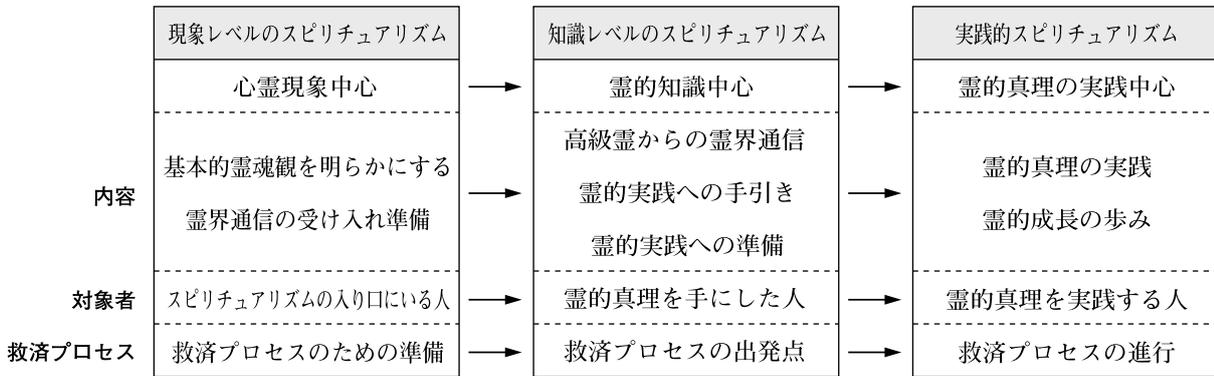
霊的知識を手に入れば、その時点からその活用の仕方に責任が付加されます。その知識の分だけ生活水準が高まらないといけません。高まらなかったら、その代償を支払わされます。(中略) 知識がそこにあることを知りつつそれを活用することができないでいると、それによって逆にその人の霊性が弱められ、害をこうむることになりかねません。

(霊性進化の道しるべ・227)

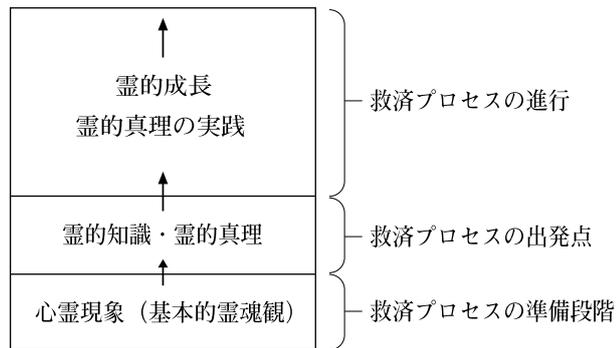


## まとめ

地上におけるスピリチュアリズム発展のプロセスを整理すると、次のようになります。



以上を別の角度から図示すると、次のようになります。



### 3 || “反面教師”としての 英国スピリチュアリズム

#### スピリチュアリズムの本場イギリス

これまで英国は“スピリチュアリズム”の前線に立って、世界のスピリチュアリズム界をリードしてきました。キリスト教という伝統宗教からの反対・迫害を乗り越えて、スピリチュアリズムの道を開拓してきました。英国スピリチュアリズムは、シルバーパーチに代表される高級霊の霊界通信を地上世界にもたらしました。

イギリス国内には数多くのスピリチュアリスト・チャーチがあり、大勢の会員を抱えるスピリチュアリストのグループや協会もあります。またツーワールズやサイキック・ニュースのような定評ある心霊誌も発行されています。さらにスピリチュアル・ヒーリングは世界で最も進んでおり、多くのヒーラーが活発に活動しています。

英国は、まさにスピリチュアリズムの本場と言えます。日本のスピリチュアリズムも英国スピリチュアリズムの影響のもとで、今日に至りました。英国は世界のスピリチュアリズムの道を開拓して基礎を築き、スピリチュアリズムの歴史に偉大な足跡を残しました。

#### “反面教師”としての現在の英国スピリチュアリズム

このように英国は、世界で最もスピリチュアリズムが普及し、スピリチュアリズムの長い歴史を持った国です。しかし伝統があることや、スピリチュアリズムの発展に多大な貢献をしてきたということが、必ずしも現在の英国スピリチュアリズムが霊的に優れているということを意味しているわけではありません。

シルバーパーチのような高度の霊界通信を受けながら、それがいまだに英国スピリチュアリズム界の指導理念になっていません。多くの部分で高級霊の教えから大きく懸け離れている（\*あるいは、いまだにそこに至っていない）のが現在の英国スピリチュアリズ

ムの実状と言えます。

先程スピリチュアリズムは、現象レベル→知識レベル→実践レベルという段階を踏んで進化・発展していくことを述べました。シルバーパーチは、徹底して「実践レベル」でのスピリチュアリズムを強調しています。しかし現在の英国スピリチュアリズムは、その大半が現象レベル、知識レベルにとどまっています。スピリチュアリスト・チャーチでは、相も変わらず昔ながらの交霊会や心霊現象を中心とした集まりが続けられています。スピリチュアリストの協会も心霊現象や知識を中心としたレベルにとどまったままで、霊的真理の実践の重要性を訴えようとはしていません。

チャーチや協会は、霊的真理の実践を方針として、そこに集う人々を実践の方向にリードしていかなければなりません。しかし現実には、そうした改革のためのエネルギーは、すでに尽きてしまったかのように見受けられます。

もちろん英国のスピリチュアリストの中には、シルバーパーチの教えを忠実に実践しようとする霊性に恵まれた人もいることでしょう。しかし英国スピリチュアリズム全体としては、いまだに実践を重視する方向に踏み出せずにいます。英国の心霊誌には多くのヒーラーや霊能者、チャーチからの広告が掲載されていますが、それらを見るかぎり、日本の低俗なものとは大差ありません。心霊現象に目覚めたのはいいけれど、そこから先に進んでいかないのが、現在の英国スピリチュアリズムの状況なのです。



世界各地から多くの人々がスピリチュアリズムを学ぶために英国に足を運びますが、率直に言って、現在の英国スピリチュアリズムから得るものはほとんどないのが実状です。『シルバーバーチの霊訓』を忠実に実践しようとするならば、もはや英国スピリチュアリズムから取り入れるものはないのです。現在の英国スピリチュアリズムの中に、シルバーバーチが言うような、人類のため、スピリチュアリズム普及のために人生を捧げ、自分を犠牲にして歩もうとする人が、果たして何人いるものかと疑問を感じます。こうした心配が単なる危惧であることを願いますが、私達の目には現在の英国スピリチュアリズムは、もはや魅力あるものには映りません。

### 魅力の乏しい、これまでの日本のスピリチュアリズム

これまで日本のスピリチュアリズムも、こうした英国のスピリチュアリズムと大差のないような歩みをしてきました。スピリチュアリズムの中心は、心霊現象レベル、よくて霊的知識レベルにとどまっていた。もちろん先輩スピリチュアリストの中には、少数ですが霊的真理の普及を自らのライフワークとして、真剣に歩んでこられた奇麗な方々もいらっしゃいました。しかし日本のスピリチュアリズム全体としては、心霊研究あるいは霊的知識の収集といったレベルを抜け出るものではありませんでした。「霊的真理の実践」がスピリチュアリズムの中心になっているとは、とても言えない状態でした。

残念なことです。私達スピリチュアリストよりも、他の宗教に係わっている人々の方が、純粋に奉仕の実践に取り組んできたことを認めなければなりません。実践に対する意欲や真剣さは、新新宗教の信者の足元に遠く及びませんでした。これまでの日本のスピリチュアリズムは、現在の英国スピリチュアリズム同様、霊界の人々にとってあまり魅力のないものであったと言わざるを得ません。

### 潜在性を秘めた日本のスピリチュアリズム

日本のスピリチュアリズムが英国スピリチュアリズムと比べて幸いであったのは、スピリチュアリズムの底辺がそれほど拡大してこなかったことです。スピリチュアリズムが日本の中で知名度も存在感もなく、マイナーの地位にとどまっていたことです。英国のように多くのスピリチュアリスト人口を抱えることもなく、活動の拠点となるチャーチの展開がほとんど見られなかったことは、今となってはむしろ幸いだったと言うべきでしょう。

なぜならどのような分野でも言えることですが、いったん形が出来上がってしまうと、次の段階に進歩しようとする際にそれが足枷となってしまふからです。その足枷が大きければ大きいほど、それを崩して新しいものをつくり上げるのに、たいへんな時間と労力が必要となります。英国スピリチュアリズムのように伝統のあることが、スピリチュアリズムの次なる進化・発展において、かえって障害となってしまうのです。キリスト教という伝統宗教が、スピリチュアリズムという新しい霊的動きに呼応できなかったように、これまでの古いスピリチュアリズムの伝統も、新しくレベルアップして発展しようとするスピリチュアリズムの足枷となってしまふことになりかねないのです。

日本のスピリチュアリズムは、ここ4～5年の間に『シルバーバーチの霊訓』を中心として急激に発展を見るようになってきました。古いしがらみのないスピリチュアリズム、シルバーバーチの霊訓に基づく「実践中心の新しいスピリチュアリズム」の展開が始まっています。もちろんいまだに心霊現象レベル、知識レベルにとどまっている人々も多くいますが、真理の実践をスピリチュアリズムの中心と考える人々がどんどん増えています。これまでの英国スピリチュアリズムには見られなかった動き——英国スピリチュアリズムとは違ったスピリチュアリズムの展開が、現に今、日本で起こりつつあるのです。

## 4 || 靈的真理の実践を中心とした スピリチュアリズム新時代の 始まり

### 実践なきスピリチュアリズムは無意味

スピリチュアリズムは「靈的真理の実践」に至って、初めてその目的を達成することになります。言うまでもなくスピリチュアリズムの示す道を真っ先に歩むのは、真理を手にした私達スピリチュアリストに他なりません。

ところで私達はこれまで、靈的真理の実践にどのくらい意識を向けてきたでしょうか。今いちど謙虚に反省しなければなりません。真理によって自分の生活の質が高まったかどうかをチェックしなければなりません。真理を日常生活で実際に活用してきたか、どのくらい真剣に利他愛を実行してきたかを振り返ってみる必要があります。

他の宗教の中には、スピリチュアリズムのような優れた真理がないにもかかわらず、真剣に実践に励み、人生を純粋な奉仕に捧げている人がいます。そうした人々と比べ、私達スピリチュアリストのこれまでの歩みは、果たして堂々と胸を張ることができる内容だったでしょうか。

残念なことにスピリチュアリストの中には、いまだにスピリチュアリズムが信仰実践であることを理解していない人々が多く見受けられます。スピリチュアリズムを単なる現象や靈界通信を扱うことであるとか、靈的知識を学ぶことであると錯覚している人々があります。なかには頑に、スピリチュアリズムは信仰ではないと考えている人もいます。

しかしスピリチュアリズムは——「靈的真理に基づく信仰」なのです。靈的真理に信仰的内容を積み上げたものが本当のスピリチュアリズムなのです。言い換えればスピリチュアリズムとは、日常の行為そのものであり、靈的真理にそった日常の生き方に他なりません。シルバーバーチの靈訓は、私達がどのように日常生活を過ごすべきかを教えています。もし私達が日常生活で真理を実践しないとすれば、せっかく手に入れた“靈的宝”を、すべて捨て

去ることになってしまいます。

「スピリチュアリズムで大切なのは、実生活において何をしているか、何をしてきたかということです」というシルバーバーチの言葉の中に、スピリチュアリズムの本質が示されています。

### 靈的真理の実践に目覚め始めた多くの人達

私達のサークルには、毎日のように全国各地の方々から、スピリチュアリズムと出会った感動の聲が寄せられています。「ニューズレターによってスピリチュアリズムの本質が理解できるようになりました」「シルバーバーチの靈訓がこんなにも素晴らしいものであることが初めて分かりました」といった感想が届けられています。

そうした喜びや感動を口にされる方々に共通して見られる傾向は、靈的真理を人生の指針として、それを忠実に実践しようとしているということです。ニューズレターの厳しい内容を当然のこととして受けとめ、それをむしろ本物の証と認めているのです。このような人々は、もはや心靈現象や交霊会に特別な関心を持つことはありませんし、世俗受けだけを狙ったニセ靈能者や、本物の靈言の一部を都合よく取り入れて作り上げたニセ靈界通信を見抜く靈的判断力を身につけています。また「自分は今、何をすべきか？」という意識を持ってシルバーバーチの靈訓と接し、実践の決意を高めるためにその言葉を繰り返し読み、自分自身を鼓舞しているのです。



単なる心靈現象や靈的知識の収集のレベルを越えた人々、何よりも日常生活で靈的真理の純粹な実践を心がけようとする人々が、ここ数年の間に日本の各地で次々と現れるようになってきました。そしてその数は、年を追うごとに確実に増え続けています。こうした動きを目の当たりにして私達は、本物のスピリチュアリズム・実践レベルのスピリチュアリズムが今まさに日本に展開しつつあることを実感し、大きな喜びと感動を味わっています。

そのような靈的な動きは、スピリチュアリズムの本場である英国にも見られません。150年のスピリチュアリズムの歴史において、初めて靈界の高級靈が認めるレベルでのスピリチュアリズムが、今日本に起こりつつあることを強く感じます。靈界の人々が日本のスピリチュアリズムにかける期待が、ますます大きくなっているのを手に取るように感じます。シルバーパーチの靈訓によって啓発され、眞の靈界の道具として自らを捧げようというスピリチュアリストが現れ、その高貴な志に呼応して靈界の無数の靈達が、全面的に協力する態勢が整えられるようになっていきます。

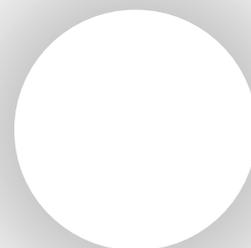
## スピリチュアリズム新時代の開拓者として——日本のスピリチュアリズムに対する靈界の期待

実践に目覚めたスピリチュアリストの数が増えるにともない——「スピリチュアリズムとは、靈的真理の実践を通じて靈的成長をなすと同時に、人類救済のために貢献することである」との認識が確立されるようになるでしょう。そうした本物のスピリチュアリズムを標榜する人々の数が増えるにつれ、日本からアジアへ、そして世界に向けて、スピリチュアリズムの“新スタンダード”を示すことができるようになるでしょう。

靈界の意図する本物のスピリチュアリズムの見本——靈的真理の純粹な実践の見本を日本のスピリチュアリズムが示すことができるとするなら、それこそがシルバーパーチをはじめとする高級靈の願いに応えることになるのは言うまでもありません。今スピリチュアリズムは、間違いなく新しい飛躍の

時代を迎えようとしています。そのスピリチュアリズム新時代の開拓者として、私達スピリチュアリストに大きな役割が期待されています。

世界に先駆けてスピリチュアリズムの新スタンダードを確立し、本物のスピリチュアリズムの伝統を築くことが、日本のスピリチュアリズムに求められています。高級靈によって示された靈的真理を世俗に迎合させることなく受け入れ、それを忠実に実践に移すことが、日本のスピリチュアリズムに願われているのです。



# 呪いと生き霊の祟りについて ——まことしやかな“迷信”

## ニセ霊能者の定番トーク——「生き霊の怨念」による災い

夫婦関係がうまくいかない、娘の縁談がどうしてもまとまらない、婦人病がなかなか治らない——こんな悩みを抱えた女性が霊能者を尋ねます。すると霊能者から、「あなたのご主人は、これまで他の女性とトラブルを起こしたことはありませんか？」と切り出されます。その女性は隠し事を言い当てられ、びっくり仰天して、夫の浮気話を語り始めます。そして無理やり相手の女性と手を切らせた経緯を話します。それを聞いて霊能者は、やおら「あなたに不幸が絶えないのは、別れさせた女性の恨みの念が祟っているからだ」と言います。

また、ある若い女性が占い師のところに足を運んで、腰の痛みと体調の乱れを訴えます。すると、「あなたは最近、男性と付き合っていたことがありますね」と突然言われます。妻子ある男性と付き合っていたのは4年ほど前のことでしたが、その指摘に驚いて、昔の不倫交際の事実を打ち明けます。すると占い師は、「相手の男性の奥さんの怨念が祟って、あなたの健康を害している」と言います。

皆さん方は今まで、こうした話を聞いたことはなかったでしょうか。「生きている人間の恨みの念(生き霊)が祟っている」——これはニセ霊能者の定番トークの一つで、騙しの常套手段です。

これまでニューズレターでは、心霊現象にまつわる迷信と、それを悪用するニセ霊能者について取り上げてきました。先祖の悪因縁・水子霊の祟り・前世の悪因縁(悪いカルマ)・動物霊の憑依・家相や墓相・方角・星回りの悪さといったまことしやかな迷信が、多くの人々に不安を与えています。そしてニセ霊能者は、人々の不安と無知に付け込み、悪徳商法を繰り広げています。

今回取り上げる「呪いと生き霊の祟り」も、そうした心霊的迷信の代表的なものです。

## 災いを引き起こす「生き霊」とは

霊といえば普通は死者の魂を指しますが、生き霊は「生きている人間の霊や思念」のことです。こうした生き霊が祟って、人間にさまざまな危害を及ぼし、不幸をもたらすと言うのです。他人の恨みの思いや呪いによって人間関係にトラブルが生じたり、病気が引き起こされると言うのです。

このような「生き霊の祟り」の話は、源氏物語などの古典にもひんぱんに登場します。恋敵の女性の生き霊の呪いによって、ある女性が突然病気になって死ぬといった話が出てきます。また日本の伝統文化である能楽では、しばしば生き霊を題材としていることはよく知られています。さらには陰陽師や密教の行者が、生き霊の祟りを取り除くために祈祷をしたり、九字を切るなどの霊術を行ってきたことが知られています。



## 呪術と怨念

生き霊の崇りと関連したものとして、日本では昔から、人間の抱く怨念には威力があると信じられてきました。そして憎い相手や敵に呪いの念を送って殺したり、危害を加えるための「呪術（呪詛）」が広く行われてきました。現代人にもよく知られているワラ人形の呪いは、その一つです。昔の日本人は、自分の知らないところで他人から呪いをかけられることを恐れてきました。

こうした呪術は、裏の宗教（密教・修験道など）を通じて現代にも受け継がれています。現代の占い師や霊能者達の多くが、古来からの呪術を用いています。呪いによって相手に不幸をもたらそうとする呪術の類は、西洋社会にも存在し「黒魔術」として知られています。

### 「生き霊の崇り」は迷信に過ぎない

では、このような生き霊による崇りや怨念による災いといったことは、本当にあるのでしょうか。巷に出回っている大半の心霊関係の書物では、生き霊の崇りは間違いのない事実であるかのように述べられています。ある人を憎んでいた人が突然交通事故にあたり、病気で死んでしまったというような霊能者の話がきまって紹介されています。また家族の誰かに腹を立てたらその相手が病気になってしまい、自分が反省して心から憎しみを取り除いたとたんに相手の病気がよくなったというような体験談もたびたび取り上げられています。

もっとも霊能者によるこうした話のほとんどが、自分の霊能力をアピールし宣伝するためのものであることは言うまでもありません。現代の霊能者や祈祷師の多くは、「人間の抱く怨念には他人を不幸にする威力がある」「古来から言われてきた生き霊の崇りは本当にある」と信じているようです。

結論を言えば——「生き霊の崇り」といった霊的事実は存在しません。生き霊の崇りなるものは単なる迷信であって、錯覚に過ぎません。ある霊的な現象が間違って解釈され、それが何世紀にもわたって受け継がれ、“迷信”として日本人の間に定着するようになったのです。霊的現象に対する無知と、未

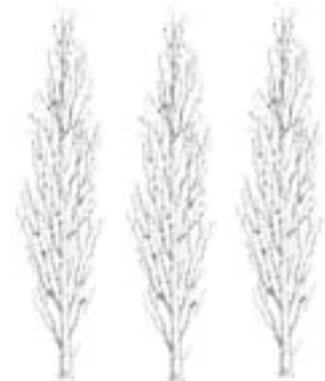
知なるものへの不安や恐怖によって迷信が増幅され、生き霊の崇りがいかにも恐ろしい現実であるかのようなイメージが作り上げられてきたのです。

現代の霊能者達も、こうした世の中の迷信を鵜呑みにして、自分の体験を無理やりそれに当てはめて解釈し、生き霊の崇りが事実であると錯覚しているのです。

### 怨念が、自分自身に返ってくることもある？

世間一般に言われている生き霊の崇りとは、人間の呪いや憎しみの思いが、相手の人間に危害を加えるようになるというものです。特に男女関係のトラブルで生じた恨みが、相手や相手の身近な人間に不幸をもたらすと言われます。もちろんそうした事実はなく、すべて迷信です。テレビの心霊番組に登場する霊能者は、よく「生き霊の崇り」などと言いますが、それは何の根拠もない嘘・作り話なのです。

生き霊の崇りを云々するような霊能者は、すべてインチキと判断して間違いありません。生き霊の崇りを口にすること自体、その霊能者が霊的事実について何も知らないことをわざわざ暴露しているようなものなのです。一般の人々と同じように、迷信をまともに信じ込んでいるか、あるいは意図的に嘘をついているかのいずれかです。



## 「人を呪わば穴二つ」？

ニセ霊能者の多くが、人を呪うとそれが自分自身に返ってくるから、人を憎んではいけないと言います。彼らはまた、相手の霊力が弱い場合にはこちらからの念は相手に通じるが、もし相手の霊力が自分より強い場合には、その念が自分自身に跳ね返されて、危害をこうむることになると言います。そして彼らは決まって、「人を呪わば穴二つ」の譬えを引き合いに出して、もっともらしい道徳的な教話を語るのです。

他人を憎んだり呪ったりすることは、明らかに神の造られた摂理に反します。宇宙は“利他愛”という法則によって支配されている以上、相手に対しては思いやりを持ち、成長を願って接するべきです。相手を憎んだり恨むとするなら、「霊的摂理に根本的に背く」こととなります。利他愛とは全く反対のことをするので、よい結果がもたらされるはずがありません。特に“呪い”といった極端な利己的行為は、大きな罪を犯すこととなります。その罪は、いつか自分自身で苦しみと後悔をもって償わなければなりません。

しかし、ここで勘違いしてならないのは——“利己愛”という神の摂理に背いた罪は、摂理のもとで生じる苦しみによって償なうようになるということです。霊能者が言うような、呪いの念が自分自身に返ってくることで苦しむようになるというようなものではありません。摂理によってもたらされる苦しみと、霊能者が言う苦しみは、内容が全く違うのです。「生き霊の怨念」そのものが存在しない以上、怨念が自分に返ってくるという話も事実ではありません。

## どうして「生き霊の祟り」といった迷信が生まれるようになったのか

では、どうして「生き霊の祟り」といった実際にはありもしないことが、多くの人々に信じられるようになったのでしょうか。

実は、生き霊の祟りという迷信は、何らかの霊的現象が間違って解釈され、それがさらに増幅される中で作り出されたものなのです。そうした迷信の

原因となった霊的現象とは、どのようなものだったのでしょうか。スピリチュアリズムの観点から、「生き霊の祟りの実態」を探ることにします。

生き霊の祟りという迷信を生み出した霊的現象とは、次に述べる3つのものです。

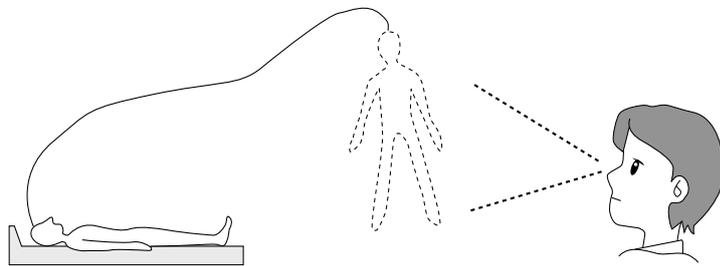


### 〈幽体離脱と幽体の物質化〉

睡眠中には誰もが「幽体離脱体験」をしますが、その際、分離した幽体（霊体）が遠く離れたところにいる人々に幽霊として霊視されることがあります。また幽体離脱した幽体が離れた場所で物質化し、人々の前に姿を見せることもあります。時にはその物質化した幽体が、地上人に話しかけたり文字を書いたり、食事をするようなこともあります。

このように遠く離れたところにいるはずの人間の姿が、突如目の前に現れるような現象があるた

め、生きた人間の霊や念が分離して、祟りや危害をもたらすと考えられるようになったのでしょう。物質文明が今ほど進んでいなかった昔には、霊視能力を持っていた人々が大勢いたでしょうし、「幽体の物質化」という現象も、ひんぱんに生じていたと思われます。日本の古典文学には生き霊の話が多く出てきますが、それはこうした霊的体験が広く一般人の中に見られたことを示しています。（\*ニューズレター22号「生き霊について」参照）



### 〈念による想念霊の形成〉

また、ある地上人が信仰の対象物をイメージして長時間祈り続けたりすると、その念が一時的に霊的実在物をつくり出すことがあります。このような地上人の念によってつくられた仮の存在物を、「想念霊・架空霊」と言います。祈祷所や霊場・寺社などには多くの想念霊が存在しています。

この想念霊が地上の霊視能力の発達した人間に認識されることがあるのです。想念霊は、離れたところにいる人間に引き付けられたり飛んで行って霊視されることもあります。こうした現象が、「生き霊の祟り」という迷信をつくり出す一つの原因となったと考えられます。



### 〈テレパシー現象〉

念が相手に少なからず影響を与えることは事実です。強い思い（念）に込められたエネルギーは“テレパシー”として、離れたところにいる人間に伝わります。その際、霊的な感受性の豊かな人（ある種の霊媒体質者）であれば、調子が狂わされるようなことになります。心がそわそわして落ち着かず、何とも言えない不安を感じたり、胸騒ぎがするようになります。テレパシーを受けると（誰かが自分のことを強く思うと）、ほんの一時ですが、精神的に不安定になるようなことが実際に存在するのです。

とはいえ問題はそのままで、それ以上の危害（\*死・病気・怪我・事故・不幸など）が引き起こされるようなことはありません。一般的に生き霊の祟りとして言われているような深刻な害が、テレパシーによって生じることはないのです。

しかし全く問題がないというわけではありませ

ん。霊的に敏感なうえに、常に恐怖心を持ち脅えている人、特に生き霊の祟りといった迷信を堅く信じ込んでいるような人の場合には、実際に何らかの異常が引き起こされることがあるのです。そうした人は、恐怖心や不安感といった精神的ストレスによって、自分自身の首を絞めることになります。絶えず生き霊の祟りに脅えるようになれば、やがて肉体も不健康になり、精神的にも異常をきたすことになるでしょう。

このような状態を最も喜んでいるのが、地上人の周りにいて働きかけのチャンスを窺っている“低級霊達”です。祟りを恐れ、不安に脅える地上人ほど、低級霊にとってイタズラしやすく、からかいがいのある存在はありません。そうした人々は、低級霊の“絶好の餌食”なのです。その結果、さまざまな災いが低級霊によってもたらされるようになります。



## 生き霊の祟りではなく、低級霊のイタズラ

ここまで述べてきた霊的現象は、スピリチュアリズムにおいては常識的に認められており、しいて大袈裟に騒ぎ立てるようなものではありません。それらはいずれも「霊的法則」に基づいて引き起こされる現象であって、奇跡でも何でもないので。しかし霊的真理に対する知識が全くない人々にとっては、まさに驚愕するような出来事と思われることでしょう。こうした霊的現象が間違っただけで解釈され、それが時代とともに定着し、人々の精神の中に強く植え付けられるようになりました。

生き霊の祟りと言われるもののほとんどは、低級霊の働きかけによって起こされているに過ぎません。迷信から生まれた地上人の不安感や恐怖心が、低級霊の悪行を引き出しているのです。そうしたつまらない恐れや脅えがなければ、低級霊は悪さをすることはできません。生き霊の祟りを“迷信”として頭から否定し、相手にさえしなければ、何の問題も生じません。低級霊は、働きかけることができないからです。

“おんりょう怨霊信仰”が社会の隅々まで行きわたり、すべての人々が怨霊を恐れ脅えていた時代は、低級霊にとってまことに都合のいい時代でした。そこでは「生き霊の祟り」という迷信を利用した低級霊の暗躍・悪事は、日常茶飯事だったはず。それによって人々は、ますます生き霊の祟りを恐れるようになり、さらなる迷信が生み出されることになりました。そして人々の心を、いっそう精神的牢獄に閉じ込めることになったのです。

繰り返しますが、単なる憎しみのテレパシー（怨念）が直接相手に危害を加えたり、病気を引き起こすようなことはありません。すべては低級霊の働きかけによってもたらされるものです。不幸やトラブルは“念”によって生じるのではなく、地上人の不安感や恐怖心に付け込む低級霊によって引き起こされるものなのです。（\*ニューズレター 22号参照）

世の中には生体磁気の強い人、つまり肉体次元のオーラを多量に放散している人間がいます。ある種の霊能者や肉体行をしている修行者によく見られます。そうした人間が、加治祈祷や呪詛などの霊術に

よって悪意のこもった精神的エネルギー（サイキック・エネルギー）を相手に送ると、先に述べたようなテレパシー現象が起きることになります。そして相手の人間が霊的に敏感なうえに「生き霊の怨念の祟り」を信じているなら、低級霊がいっせいに働きかけることになります。テレパシーが相手の心に不安感を生じさせ、それをきっかけにして低級霊が働きかけを開始するようになるのです。この意味では、一般人の場合より、行者の呪いの威力は大きいと言えるでしょう。

しかし、それもすべて相手の感受性と、迷信を信じているかどうかにかかっています。霊的に鈍感な人、あるいは生き霊の祟りなど頭から否定するような人に、いくら想念を送っても無駄になってしまいます。



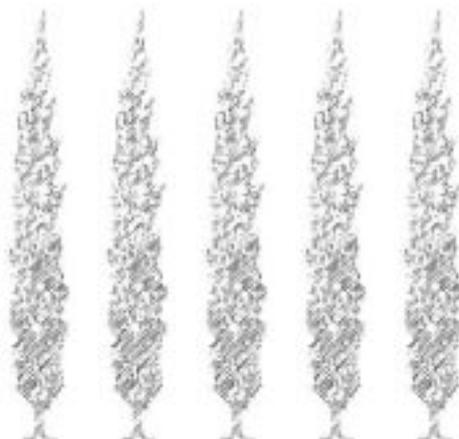
## ニセ霊能者の言うことは無視する

このように生き霊の崇りなるものの実態がはっきりすると、それを取り除く解決方法もおのずと明らかになります。生き霊の崇りは単なる迷信に過ぎないのに、もし霊能者が「生き霊がいる」とか「生き霊の崇りだ」などと言うとしたら、頭から無視することです。無視して気かけさえしなければ、馬鹿げた迷信に惑わされたり、不安や恐怖に駆られることはないはずです。

これまで生き霊の崇りについての対処法として、除霊や密教の霊術（\*九字など）・護符張りなどが行われてきました。しかし、そうした呪文や秘術・霊術には何の効果もないどころか、低級霊をさらに付け上がらせることになるだけだったのです。密教の行者も祈祷師も、低級霊にとっていい遊び相手だっ

たのです。それと同じような時代遅れのことを、現代のニセ霊能者が（こともあろうにスピリチュアリズムを口にする霊能者が）テレビで自慢げに行い、何も知らない人々を煙に巻いています。

仮に霊能者が、たまたま相談者の隠し事や不倫の事実を言い当て、それが生き霊の崇りを招いていると言っても、そんな言葉に騙されてはなりません。低俗な隠し事を言い当てるくらいのことは、低級霊にとっては“朝飯前<sup>あさめしまえ</sup>”なのです。低級霊は自分の手足であるニセ霊能者を用いて人々をからかうために、わざとそうした情報を与えることもあるのです。霊的成長とは何の関係もない世俗的なことを低級霊から教えられ、それをさも素晴らしいことのように自慢する霊能者は、実は低級霊同様の低俗な存在であるということなのです。



# 日本スピリチュアル・ヒーラーグループからのお知らせ

## 第1回 公開スピリチュアル・ヒーリング開かれる

去る10月12日、名古屋市の東桜会館で、第1回「公開スピリチュアル・ヒーリング」を開催いたしました。多くの方々から参加の申し込みをいただき定員オーバーとなったため、一部の方にはやむをえずお断りすることになりました。当日の様子は後でお伝えいたします。

### 「日本スピリチュアル・ヒーラーグループ」によるヒーリング・ボランティア

心の道場のヒーラーからなる日本スピリチュアル・ヒーラーグループでは、スピリチュアリズム普及のための活動の一環として、遠隔治療によるヒーリング・ボランティアを行ってきました。さらに月に1度、現代医学の病院で、直接ヒーリングのボランティアも行ってきました。最近ではスピリチュアル・ヒーリングに関心を持つ医師の方々も増え、たびたび連絡をいただくようになっています。こうした状況を通じて、予想以上にスピリチュアル・ヒーリングが日本国内に浸透しつつあることを実感しています。

ヒーラーグループの活動内容については、ホームページで可能なかぎり公開していますので、関心のある方はご覧ください。

#### ●ホームページアドレス

<http://www.ne.jp/asahi/sph/hg/>

#### ●TEL / FAX 052-801-5925

### 「スピリチュアル・ヒーリング」の2つの特徴

スピリチュアル・ヒーリングは、気功や手かざし療法などの他のヒーリングとは、次のような2つの点で根本的に異なっています。

まず1つは——「ヒーリングは、どこまでも霊的真理普及の一環として行われている」ということです。スピリチュアル・ヒーリングの目的は、ヒーリングを通じて霊的世界の存在を人々に知らせることなのです。「病気を治してほしい!」と願っている患者の皆さんにとっては酷なように聞こえるかも知れませんが、スピリチュアル・ヒーリングでは、病気を治すことより本人の“霊的覚醒”こそが本当の救いになると考えているのです。「病気が治っても、患者の心に霊的变化・心境の深まりが起きないならば、そのヒーリングは失敗である」とシルバーパーチは述べています。

スピリチュアル・ヒーリングは、肉体の救いよりも霊的救いを重視するヒーリングで、この点で、他のヒーリングと際立った違いがあります。歴史上最高のスピリチュアル・ヒーラーと言われたハリー・エドワーズも、スピリチュアル・ヒーリングの目的が病気の治療ではなく霊的覚醒にあることを、シルバーパーチから繰り返し教えられています。

世の中には、ヒーリングの治癒率だけを誇張して自分を売り込もうとする治療師が多く見られますが、本物のスピリチュアル・ヒーリングでは、そうしたことは一切ありません。

もう1つのスピリチュアル・ヒーリングの特徴は——「地上のヒーラーが治療を行うのではなく、霊界の医師団が治療を行う」ということです。他のどのような治療法でも、治療の主役は医師であったり治療師なのですが、スピリチュアル・ヒーリングでは主役は「霊医」であり、地上のヒーラーは「霊

医の道具」として働いているに過ぎません。

優れたスピリチュアル・ヒーラーの資格は、人格性・霊性によって決定されます。ヒーラーには霊的能力ばかりでなく、道具としての徹底した謙虚さが要求されます。霊界の医者達と地上のヒーラーの思いが一つとなって連携が正しく行われるとき、ヒーリングは最高の結果をもたらすのです。

「自分が病気を治してやる」といった意識は、単なるヒーラーの思い上がりであって、真の愛情ではありません。世の多くの自称スピリチュアル・ヒーラーは、自己の名誉心や虚栄心にとらわれています。スピリチュアル・ヒーリングは霊界の人々によって行われるものである以上、本来ならば治療に対する報酬など期待するものではありません。神のために奉仕するチャンスが与えられたことを、ヒーラーはひたすら感謝すべき立場にあるのです。



### スピリチュアル・ヒーリングの治療効果

誰もがスピリチュアル・ヒーリングの“治癒率”に関心を向けますが、スピリチュアル・ヒーリングの結果は、患者本人の霊的エネルギーの受容性とカルマの清算状況によって決められます。同じヒーラーの治療を受けても、治る人と治らない人がいるのはそのためです。

ヒーラーからは、相手の霊的レベル（霊的部分）に向けて「霊的治癒エネルギー」が注入されます。しかし患者の側にそれを受け入れる窓が開いていないと、霊的治癒エネルギーは霊的レベルまでは届か

ずに、精神レベルやサイキックレベル(霊体レベル)、あるいは肉体レベルでとどまってしまいます。

もちろんそのレベルでの治療はそれなりに進行しますし、人によっては、それで身体の異常が一時的に消滅したり奇跡的に治ったりします(\*気功や手当療法などは、こうしたケースが多いのです。)しかし身体の根本的な治癒プロセスが働いているわけではないため、やがて病気がぶり返すようになります。

治癒エネルギーが患者の霊的レベルに届くと、そこから精神→霊体→肉体というプロセスをへて全身にエネルギーが循環するようになります。この過程がスピリチュアル・ヒーリングでは一瞬のうちに行われることで、奇跡的な治癒が現実のものとなるのです。

ヒーラーは常に、こうした完璧な結果が現れてほしいと願って治療に臨みますが、どのような結果になるのか、相手のどのレベルまで治癒エネルギーが届くのかは、やってみなければ分からないのです。ヒーラーは、霊的レベルにエネルギーが到達することを目指してヒーリングを行いますが、患者サイドの条件によって、サイキックレベルでのヒーリングになったり、肉体レベルでのヒーリングに終わってしまう場合があるということなのです。



## 第1回 公開ヒーリング開催

日本スピリチュアル・ヒーラーグループではこれまで、ヒーラー側の時間的制約と患者の皆さんの経済的負担を考慮して「遠隔ヒーリング」をメインに行ってきました。霊医とヒーラーの連携が正しく行われさえすれば、遠隔ヒーリングであっても、直接ヒーリングと全く同じ治療効果をもたらすことができるからです。

しかし多くの方々から、「どうしても直接ヒーリングを受けたい」「すでに病院でやっているなら、ぜひ公開ヒーリングのチャンスを設けてほしい」との声が寄せられるようになってきました。そうした要望があまりにも大きくなったため、公開ヒーリングを開催することにいたしました。

今回の公開ヒーリングの開催は、日本スピリチュアル・ヒーラーグループのホームページで公表し、参加者・治療希望者の申し込みを受け付けました。その結果、定員（50名）を上回る大勢の方々からの申し込みをいただき、先に述べたように、一部の方には参加をお断りしなければならませんでした。

当日は30分ほどスピリチュアル・ヒーリングについての説明を聞いていただいてから、ヒーリングの実演に移りました。その日は3人の女性ヒーラーが、合計12名の皆さんにヒーリングを行いました。ヒーリングは参加者が見守る中で、厳粛な雰囲気の中で進められました。

ヒーリングを受けた一人一人の方にお聞きしたところ、「身体が暖かくなりました」「紫色の光が見えました」「生まれて初めての不思議な感覚を味わいました」といった感想が述べられました。



## 公開ヒーリングでの霊的状况

### ——公開ヒーリングの現場を霊視すると

今回の公開ヒーリングでは、奇跡的な治癒のケースはありませんでした。（\*とは言っても治療効果は、数日後、または数週間後に現れることもあります。）

この公開ヒーリングに参加された大半の方々は、スピリチュアル・ヒーリングという高級霊界と地上が接触する現場に初めて立ち会うことになりました。参加者の皆さんは、高級霊界との接触が、あまりにも静かで澄み切った雰囲気の中で行なわれるものであることを体験され、その静けさにむしろ驚きを感じられたようです。巷のヒーリングの派手な演出とは正反対に、実に地味な雰囲気の中でヒーリングが進められることに、本当の新鮮さを感じられたようでした。

今回は参加した皆さんのほとんどが、すでにスピリチュアリズムやシルバーバーチの霊訓を知っていたこともあり、会場は最初から澄み切った高い霊的雰囲気に包まれました。その場を数百もの霊達を取り囲むように集結し、多くの霊医がヒーラーの背後で活発に活動する様子が霊視されました。霊的治癒エネルギーが会場全体に満ちあふれ、治療風景を見ている方々にも自動的に心霊治療が及び、「自分は見学していただけなのに、いつの間にか病気が癒された」という声があちらこちらで聞かれました。

### 次回の公開ヒーリングの予定について

ヒーラーグループでは、今年は3回ほどの公開ヒーリングを予定しています。正式な日程や場所については、現時点ではまだ未定ですが、決まり次第ホームページでお知らせいたします。関心のある方は、日本スピリチュアル・ヒーラーグループのホームページをご覧ください。ニューズレターでも、できるだけお伝えするつもりです。

## “シルバーバーチの交霊会”参加者のその後

シルバーバーチの交霊会は、1981年のバーバネルの死をもって終了しました。シルバーバーチの交霊会の参加者、なかでもレギュラーメンバーは、その後どうしているのでしょうか。シルバーバーチの霊訓を編集した人々、シルバーバーチと直接話をした人々は、今何をしているのでしょうか。

交霊会が解散した後は、レギュラーメンバー同士の交流もそれほどなかったようで、トニー・オーツセンもあまり情報を持っていません。トニーに聞いたところでは、彼を除いて当時のレギュラーメンバーは、すべて他界しているのではないかということです。

バーバネルの死後、妻のシルビアは老人ホームに移り、十数年前に亡くなっています。トニーが特別に印象深い人物として名前を挙げたのがムーア夫妻です。夫のバーノン・ムーア氏がメソジスト派の元牧師であったことは、皆さんもご存じのことと思います。霊訓の中にたびたび登場し、初期にはシルバーバーチと激しい論争をしたり、その後レギュラーメンバーになってからも、何度も本質に迫る質問をしています。そして妻のフランシスは交霊会の速記者として、シルバーバーチの霊訓を世に送り出すための大きな貢献をしてきました。シルバーバーチは、「この二人は、私が出会わせたのです」と言っています。そして二人の結婚に際して、シルバーバーチは祝辞を述べています。（霊性進化の道しるべ・193頁）

ムーア氏は40～50年間、交霊会に参加していました。トニーはムーア夫妻について——very very lovely people！（とても魅力的な人間）、very very spiritual people！（とても霊性の優れた人間）、very nice spiritualist！（とても素晴らしいスピリチュアリスト）であったと絶賛しています。ハート出版の『シルバーバーチのスピリチュアルな法則』に序の言葉を寄せていますが、そのムーア氏も6年ほど前に亡くなり、妻のフランシスも2年前に他界しています。

シルバーバーチの霊訓の中に、ポールとルースという子供達がクリスマスの交霊会に招待されて、シルバーバーチと語らう様子が述べられています。父親のポール・ハリス（\*子供と同名）はジャーナリストで、40～50年前にアメリカへ移住しました。トニーは、その後の詳しい様子はよく分からないが、おそらく15年ほど前に死亡したのではないかと言っていました。母親のフェイは92～93歳の高齢まで生きていたそうですが、今の様子ははっきりとは分からない、おそらく亡くなっているのではないかとのことでした。子供達も生きていれば、70歳を超える老人になっているはずです。それ以外のメンバーについては、トニーは知らないとのことでした。

---

シルバーバーチという歴史的な交霊会に参加し、それを地上世界に広めるために多大な貢献をしてきた先輩スピリチュアリストも、トニーを残して皆、霊界に旅立ちました。そして彼らの名前も徐々に地上世界から消え去ろうとしています。

しかし残された『シルバーバーチの霊訓』は、その後もますます光を増し、世界中に行き渡り、地球人類の歴史を大きく変えようとしています。当時の交霊会の参加者達は、スピリチュアリズムのための捨て石となって、この世を走り抜けたのです。



## スピリチュアリズム・ビデオ&テープ ライブラリー

### VIDEO

#### ビデオ『地球人類の霊性進化の道 “スピリチュアリズム”』

— 霊的真理のエッセンス・真理編 —

(価格)

「真理編・前編」 2時間テープ 1本……2000円

「真理編・後編」 2時間テープ 2本……3500円

※別途、送料がかかります。

当サークルでは、スピリチュアリズムによってもたらされた「霊的真理」を、より多くの方々に正確に理解していただくために、「真理編」のビデオを作成しました。このビデオは、膨大な真理を簡潔にまとめ、誰にでも分かりやすい言葉で説明しています。入門者にかぎらず、これまで長年「霊訓」に親しんでこられた方にとっても、驚くような新鮮さと、真理の深い理解にともなう感動を得ていただけるものと確信しています。またこのビデオは、「読書会・学習会」を進める上においても、最適の教材になるものと思います。

すでにビデオをご覧になった方々から、多くの感動と感謝の声が寄せられております。「今まで本で読み、分かっていたつもりだったけれど、このビデオによって初めて、スピリチュアリズムの一番肝心な点が明確になりました」という感想を、何人もの方々からいただいております。

本を読むのは大変だという方も、ビデオによる学習ならば、ポイントを押さえながら、一気に全体を通して学ぶことができます。スピリチュアリストにとって、「霊的真理」を理解することは最も大切なことですが、このビデオは、そのための大きな助けになるものと思います。

## TAPE

### スピリチュアリズム関連書籍の 「朗読テープ」

「スピリチュアリズム入門」90分テープ 4本……1600円

「続スピリチュアリズム入門」

90分テープ 5本  
60分テープ 1本 > 計6本 2500円

「500に及ぶあの世からの現地報告」

90分テープ 8本……………3000円

※別途、送料がかかります。

これまで数多くのスピリチュアリズム関係の書物を読まれたにもかかわらず、その本質を十分理解できないままの方々が大勢いらっしゃいます。そのような方が、当サークル出版の『スピリチュアリズム入門』『続スピリチュアリズム入門』を読まれ——「初めてスピリチュアリズムの素晴らしさが分かりました。霊的真理のアウトラインが理解できました」と、感想を述べてくださっています。

そうした方々の中から、ぜひこれらの本をテープにしてほしいとの要望が寄せられておりましたが、この度、サークルのメンバーによって、『スピリチュアリズム入門』『続スピリチュアリズム入門』『500に及ぶあの世からの現地報告』の3冊の朗読テープが完成しました。

早速テープを聴かれた方々から——「真理が心に沁みわたり、深い霊的世界に包まれるような体験をしました」「一緒に霊的サークルに参加しているようで、落ち込んでいた心が引き上げられました」といった感想をいただきました。また、「サークルの学習会でこのテープを聴くことによって、全員が霊的啓発を受け、霊的な感動にひたることができました」とおっしゃる方もみえました。

皆さん一様に、本ではなかなか得られない霊的雰囲気、この朗読テープを通じて身近に体験されるようです。予想を超えた反応に、私達も驚き嬉しく思っています。皆さんがこのテープによって、霊的真理の正確な理解とともに、深い霊的世界にふれ、心を高めてくださることを願っています。

(※なおこのテープは、自由にダビングしていただいて差し支えありません。)

## ❖ スピリチュアリズム・ライブラリー ❖

スピリチュアリズム・サークル「心の道場」では、スピリチュアリズム精選シリーズとして、下記の本を自費出版しています。

- ◆スピリチュアリズム入門 (169頁)  
ースピリチュアリズムが明かすー「心霊現象のメカニズム&すばらしい死後の世界」
- ◆続スピリチュアリズム入門 (256頁)  
ー高級霊訓が明かすー「霊的真理のエッセンス&霊的成長の道」
- ◆スピリチュアリズムの真髄「現象編」 (297頁)  
『The Mediums' Book』 アラン・カルデック編著/近藤千雄 訳
- ◆スピリチュアリズムの真髄「思想編」 (357頁)  
『The Spirits' Book』 アラン・カルデック編著/近藤千雄 訳
- ◆500に及ぶあの世からの現地報告 (437頁)  
ーエクトプラズムボックスを通じて明らかにされる死の直後の実生活ー  
『Life After Death』 ネヴィル・ランドル著/小池 英 訳
- ◆マイヤースの通信ー永遠の大道 (全訳) (271頁)  
『The Road to Immortality』 G・カミンズ著/近藤千雄 訳
- ◆マイヤースの通信ー個人的存在の彼方 (全訳) (304頁)  
『Beyond Human Personality』 G・カミンズ著/近藤千雄 訳
- ◆霊訓 (完訳・上) 『The Spirit Teachings』 (225頁)  
ステイントン・モーゼス著/近藤千雄 訳
- ◆霊訓 (完訳・下) 『The Spirit Teachings』 (260頁)  
ステイントン・モーゼス著/近藤千雄 訳
- ◆シルバーバーチは語る (443頁)  
『Teachings of Silver Birch』 A. W. オースティン編/近藤千雄 訳
- ◆シルバーバーチの霊訓  
ースピリチュアリズムによる霊性進化の道しるべー  
『A Voice in the Wilderness』 トニー・オーツセン編/近藤千雄 訳
- ◆シルバーバーチの霊訓  
ー地上人類への最高の福音ー  
『The Seed of Truth』 トニー・オーツセン編/近藤千雄 訳
- 〈現在絶版となっている書籍の復刻予定〉
- ◆シルバーバーチの霊訓 (仮題) 『The Spirit Speaks』  
トニー・オーツセン編/近藤千雄 訳
- ◆ジャック・ウェバーの霊現象 『The Mediumship of Jack Webber』  
ハリー・エドワーズ著/近藤千雄 訳
- ◆妖精物語 『The Loming of the Fairies』  
A・コナン・ドイル著/近藤千雄 訳

---

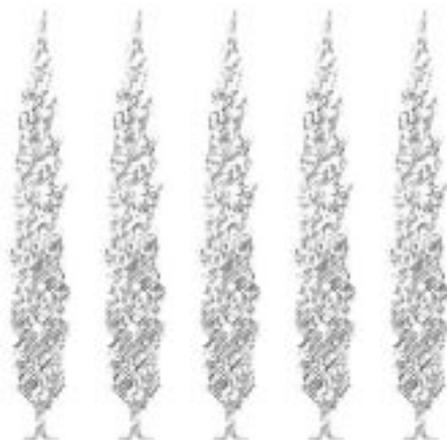
明けまして、おめでとうございます。

スピリチュアリズム普及のために貢献したいと願い、書籍の自費出版を始めてから8年、ニューズレターの発行から6年が経ちました。

その間、出版物を希望される方々の数も年々増加し、「スピリチュアリズムの素晴らしさがよく分かりました」といった嬉しいお便りをたくさんいただきました。本物のスピリチュアリズムが確実に浸透し、高い霊的歩みを踏み出してくださる方々が増えつつある現状を心から喜んでいます。

そしてこれまでの導きを感謝するとともに、今年も「霊界の道具」として、いっそうスピリチュアリズムのために貢献していきたいと決心を固めております。新しい年のスピリチュアリズムのさらなる発展と、皆様の霊的実りを心よりお祈り申し上げます。

(\*12月よりいっそう多忙となり、今号のニューズレターの発行が遅れまして申し訳ありませんでした。)





*Spiritualism Circle*  
*Kokoro no Dojo*